

6月7日 「アールニの教えとシュヴェータケートゥの学び」

チャンドゥーギヤ・ウパニシャッドより、「塩と水」の例

今は、ウパニシャッドからいろんな面白い例えを使って勉強をしています。私たちの目的は、その例えを想像するだけではなく、マナナをすることです。そうしないと、例えが無意味、無関係になります。ブラフマンを悟るためには、マナナの段階がとても大切です。マナナのコネクションが悟りです。それをいつも覚えておいてください。

今日は、チャンドゥーギヤ・ウパニシャッドの資料を使います^{注1)}。このウパニシャッドには、とても面白い物語や、ブラフマンについての深い議論や説明があります。その1つに、前に勉強したマハーヴァッキヤがあります。

タット トワ アシィ
Tat-tvam-asi 「あなたはその存在です。」

タット (Tat) : あるもの、ブラフマン トヴァム (tvam) : あなたは、求道者 アシィ (asi) : です
その偉大な言葉の源は、チャンドゥーギヤ・ウパニシャッドです。チャンドゥーギヤ・ウパニシャッドの中に物語のような言葉で始まる節があります。

シュヴェータケートゥが 12 才の時、彼の父であるウッターラカは彼に言った。「シュヴェータケートゥよ、お前は今まさに、師の元に行って学習しなければならない。わが家の家系に連なるものに、ブラフマンについて無知なる者はいないのだよ、わが子よ」と。

ウッターラカ・アールニ。アールニの別の名前がウッターラカです。アールニの息子がシュヴェータケートゥです。名前を呼ぶときは、文法の関係で、シュヴェータケートゥになります。これは、ガンガーがガンゲー、マザドゥルガーがドゥルゲーと変わるのと同じです。

アールニのお父さんは聖典を勉強して悟り、ブラーミン（ヒンドゥ社会の最高階級）になりました。ブラーミンはカーストで、伝統的に、お父さんがブラーミンであると、息子もブラーミンです。しかし、ブラーミンの本当の意味は「ブラフマンを悟った人」です。それを考えると、本当のブラーミンはとても少ないです。

昔は聖者のほとんどは森に住んでいました。今のような大きな学校ではなく、個人的に教えていました。そして父アールニは息子に、そこに行かないと、「ブラーミン」にならないで「ブラフマンの友達」になると言いました。ブラフマンの友達とは、本当のブラーミンではないという意味です。

さっそく、シュヴェータケートゥは師の元へ赴き、12 年間学問に励んだ。すべてのヴェーダを記憶することに専念した後、彼は自分の学んだことに対する自信に満ち溢れて家に帰った。

彼の父は、この若者の慢心に気づいて彼に言った。「シュヴェータケートゥよ、お前は、それによって我々が聞くことのできぬものを聞き、それによってわれわれが知覚することのできぬものを知覚し、それによってわれわれが知ることのできぬものを知る、そのような知識について尋ねたかね？」

アールニは戻ってきた息子を見て、自惚れと傲慢でいっぱいなのを知りました。本当の勉強ができていたなら、

謙虚さが出ていますが、その反対でした。本当は勉強するとその勉強の結果で“謙虚さ”が現われます。なぜなら学問は無敵なものですから、私たちが少し勉強しても知らないことの方が多くあることが分かりますから、自惚れが出ません。また、私たちより、他の人の方がもっと勉強している可能性がありますから、謙虚になります。聖典をたくさん勉強しても、まだ真理を悟っていないことを理解すると謙虚になります。お父さんは悟った人でしたから、息子が自惚れ、傲慢があることがすぐにわかりました。

また、聖典の「真理を悟った」という基準は、世俗的に名声欲、お金を稼ぐ、嫉妬などがある人は、聖典をたくさん勉強していても悟っていないということです。

前にシャウダ・ギャーナとタットワ・ギャーナの話をしました。シャウダ（サットワ）・ギャーナは言葉の勉強だけ、その言葉だけの知識です。タットワ・ギャーナは、この言葉の本当の深い意味を理解する知識です。シュヴェータケートゥは、12年間一生懸命聖典の勉強をしてブラフマンのことを学びましたが、シャウダ・ギャーナの状態でした。

そのことを理解して、アールニはシュヴェータケートゥに質問しました。普通は聞くことも、考えることも、知ることもできませんが、あるものを知っていれば、すべてのものを聞くことも知ることも考えることもできるものは何か？と質問しました。

「その知識とは何ですか、父上」とシュヴェータケートゥは尋ねた。

「息子よ、一塊の粘土を知ることによって、粘土で作られたあらゆる物が知られるように、異なるのは名称のみであり、それは言葉から発生するのであって、真実はすべてが粘土である、ということである。また、1つの金塊を知ることによって金で作られたあらゆる物が知られるように、異なるのは名称のみであり、それは言葉から発生するのであって、真実はすべてが金である、ということである。まさにそのように、その知識は、それを知ることによって、われわれが一切を知るところのものである」。

「しかし、あれらの尊敬すべき私の師たちは、間違いなくその知識を知りませんでした。なぜなら、もし彼らがその知識を持っていたならば、彼らはわたしにそれを教えたに違いないからです。ですから、父上、その知識を私にお与えください」。

「そうしよう」と、ウッターラカは言って、次のように続けた。・・・

お父さんは悟った人でしたから、息子はお父さんにそれを教えてくださいと言いました。そして、お父さんはいろいろな例えを使って、息子に「ブラフマンとは何か」を説明しました。お父さんがいろいろな例えを使った目的は、その例えを息子にマナナさせることでした。

これまでのシュヴェータケートゥの勉強は、多くの言葉を理解することでした。しかし、お父さんの教える目的は、言葉の勉強ではなくブラフマンを悟るためです。真理を悟ることです。いろいろな例えを使って、目的に集中してマナナすることです。

先生が生徒に「^{アハム} aham ^{ブラフマースミ} brahmāsmi」と教えます。それを聞いて（シュラバナ）生徒は、苦行（マナナ）をして、瞑想（ニディッディヤーサナ）をして、最後に理解します。タパッスヤー（苦行）をしないと理解できません。そのタパッスヤーの1つの方法がマナナです。

最初に、いろいろな例えの中から、塩と水の例えの話をして。

*Lavanam etat / udake / avadhaya / ata ma pratah upasidathah / iti / Sah tatha ha cakara / tam ha uvaca /
yat lavanam / dosa / udake avadhah / anga / tat ahara iti / tat ha avamrsya / na viveda /
(chāndogya upaniṣad 6.13.1)*

*Yatha / vilinam eva / anga / asya antat achama iti / katham iti / lavanam iti / madhyat acama iti / katham iti /
lavanam iti / antat acama iti / katham iti / lavanam iti / abhipraya etat / atha ma upasidathah iti / tat ha tatha
cakara / tat sasvat /samvartate / tam ha uvaca / atra vava kila / somya sat / na /nibhalayase / atra eva kila iti /
(chāndogya upaniṣad 6.13.2)*

*Sah yah / esah anima / idam sarvam aitadatmyam / tat /satyam / sah atma / tat tvam asi / svetaketo iti /
(chāndogya upaniṣad 6.13.3)*

訳：「この塩を水の中に入れて、明日の朝、私の所にきなさい」。シュヴェータケートゥは言いつけられた通りにした。翌朝、父は、水の中に入れた塩を持って来るように彼に命じた。しかし彼はできなかった。それはすでに溶けてしまったからだ。そこで、ウッターラカは言った。「その水をすすって、どのような味がするか言ってみなさい」。「塩辛いです、父上」。それから、ウッターラカは、「真ん中から飲んでください」。「どのような味がしますか」。「塩辛いです、父上」。それからウッターラカは、「底の水を飲んでください」。「どのような味がしますか」。「塩辛いです、父上」。

「まさにそのように」と、ウッターラカは続けた。「この体の中にあるブラフマンはお前には見えないが、それは確かにここにあるのだ。微細な本質のところのもの、その中に万物は存在する。それは真実である。それはアートマンである。そして、シュヴェータケートゥよ、汝はそれである」

lavanam etat : 塩 udake : 水に avadhaya : 入れる ata ma : その後に pratah : 朝に
upasidathah iti : それを持って来ててください Sah : ある人 tatha : そのように ha cakara : しました
tam ha uvaca : お父さんがシュヴェータケートゥに言いました yat lavanam : ある塩 dosa : 夜
udake avadhah : あなたが水の中に入れた anga : 息子 tat : そのもの
ahara iti : (そのものを見てください、持って来てください
tat ha avamrsya : 息子は探しました na viveda : 見ることはできませんでした yatha : それから
vilinam eva : この塩は水の中になくなりました anga : 息子 asya antat : 今は見えないが別の方法で
achama iti : 上から飲んでください katham iti : どうでしょう lavanam iti : それは塩(しょっぱい)
madhyat : 真ん中 acama iti : のところから飲んでください katham iti : どうですか
lavanam iti : これもしょっぱいです antat acama iti : 下から取って飲んでください
katham iti : どうですか lavanam iti それもしょっぱいです abhipraya etat : これを捨ててください
atha ma upasidathah iti : その後私のところに来てください
tat ha tatha cakara : それで言いました、シュヴェータケートゥは従いました
tat sasvat samvartate : その水のどこでも遍在しています
tam ha uvaca : その時お父さんである先生は自分の息子である生徒(シュヴェータケートゥ)に言いました
atra vava kila : そのように、この体の中に(あなたの体の中に)
somya sat : あなたの体の中にその魂はあります、あなたの体のあらゆるところにその魂はあります
na nibhalayase : ですが、あなたは見ていません、見ることはできません。
atra eva kila iti : 体の中にあります sah yah : あるもの esah anima : アートマンは精妙なものです
anima は anu からきています。anu は原子です。esah anima はとても精妙なものです

idam sarvam aitadatmyam : そのものはすべての人、生き物の魂です

tat satyam : これが真理です sah atma : それはアートマンです

tat tvam asi : シュヴェータケートゥ、あなたはそのアートマンです

コップの中の水をいろいろなところから飲んででも全部しょっぱいです。目で見ることができなくても塩は何処にでも存在しています。それと同じことで、魂は胸の中に、頭の中に…などの特別な場所にはありません。体の中のどこにでもあります。

コップの水は肉体の例えです。その中の塩は魂です。この話の中にいろいろと大事なことがあります。

シュリー・ラーマクリシュナの話の中に、同じような話があります。

あるとき一個の塩人形が、海の深さをはかりに行った。それは海に入るより早く溶けてしまった。さて誰が海の深さを告げることができたか。

(「ラーマクリシュナの福音 第七章 師とヴィジョイ・ゴースワミー (P111)」より)

完全な知識のしるしがある。人はそれを得ると沈黙してしまう。そのとき、塩人形にたとえられる『私』は、絶対の存在・知識・至福の海に溶け込んでそれと一つになってしまうのだ。そこには、区別のかすかな痕跡も残らない。 (「ラーマクリシュナの福音 第六章 ブラフマンの信者たちとともに (一) (P86)」より)

塩を作るプロセスは、海水を取ってきて、日光や風や熱で水分を蒸発させ、最後に残った塩を生成して取り出し、塩人形になります。それが肉体と魂が一つになった状態です。

蜘蛛と蜘蛛の巣の話で、巣は蜘蛛のお腹の中から出て、その中に蜘蛛が住んでいます。ブラフマンから宇宙が現れて、その宇宙に存在しています。

私たちの肉体は宇宙の一部です。ある場所にだけブラフマンが存在しているわけではありません。ブラフマンは私たちの体のあらゆるところにいます。そのことを理解するのが大切です。

その存在しているブラフマンを誰が何処を探しますか。例えば、あなたが自分の携帯電話を失くしたとします。あなたは携帯を失くしたので見ることはできません。あなたと携帯は一緒ではないので、失くすことも、見つけ出すこともできます。しかし、ブラフマンは別々ではなくあなたと同じですから、誰が何処を探しますか。分かれることができませんから、探すという考えもありません。魂は体の中に入っていますから、探すことはありえません。

また、魂はとても精妙です、精妙のなかの精妙です。無限の定義は、「1番小さいものより小さく、1番大きなものより大きい」ということです。

ブラフマンは無限ですから、ブラフマンも1番精妙なものより精妙です。私たちがそのブラフマンを見たいなら、どのようにしてできるでしょう。感覚や心や知性の力は有限ですから、限度があります。例えば、小さいものを見ようとする、目では限度があるので、顕微鏡を使います。遠くのものを見る場合は望遠鏡を使います。しかし、顕微鏡でも望遠鏡でも、魂は無限ですから、見ることはできません。それがブラフマンを知ることができない問題の原因です。

私たちは、感覚で見えないものも、心や頭で理解することはできます。例えば、山の中で、煙がのぼっているとします。その時頭で、そこには火があるということを推測します。目で見ることができませんが、理解できます。しかし、頭脳にも限界があります。

この肉体の中には、アートマンが存在していますが、とても精妙なので、見ることはできません。

また、肉体は物質ですが、意識のあるものだけが動いています。どうして物質や感覚が動けるのですか。アートマンは意識ですから、アートマンだけが動くことができます。物質は、そのアートマンの力を借りて、体のいろんな部分が動いています。

蜘蛛と巣の話で、蜘蛛は自分の中から糸を出して巣の中に存在しています。ブラフマンは宇宙を自分の中から出して、その宇宙に存在しています。それと同じで、私たちの体の中に存在しています。

ですから、この節の結論は、シュヴェータケートゥ「あなたはそのアートマン」です。という父の教えになります。

ギャーナ・ヨーガによるブラフマンとアートマンの理解

しかし、私たちは、本当に私たちの中にアートマンがいるということが理解できるでしょうか、もちろんできます。それが、カルマ・ヨーガ、バクティ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガによって、普通は見えない、観察できないアートマンが、その方法によって可能です。

ギャーナ・ヨーガはその1つの方法です。シュラバナ、マナナ、ニディディヤーサナの実践によって可能です。

牛乳の中にバターは入っていますが、見ることはできません。しかし、あるプロセスを通してバターを見ることができます。それと同じで、私たちの体の中には、アートマンとブラフマンがありますが、普通は見ることができません。しかし、ヨーガの方法を実践することで、私たちの中に魂が存在している事が理解できます。

この節の大事なポイントは、アールニがシュヴェータケートゥに何を教えたか、ということです。

「ブラフマン、アートマンを探すために、あちらこちらに行く必要はない。あなたの中にブラフマンがあります。そしてあなたはブラフマンです。」ということでした。

心の中には、ブラフマンが2通りで存在します。最初は私たちの中にブラフマンが存在するという。さらに深く勉強すると、私はブラフマンです、ということが理解できます。

最初、ある人形の中に砂糖を入れます。その人形の中に砂糖があります。もし、砂糖全部で人形を作ると全部が砂糖になります。「人形のある部分が砂糖」と「全部が砂糖の人形」との違いは理解できるでしょう。

それと同じで、私たちは、最初は「私たちの中に神がいます。」そして、私たちが段々と進んでいくと、「あなたは神です。神以外なにも存在していない。」となります。

最初は、あなたと神は別々です。「あなたの中に神がいます。」二元論的です。

次は、「あなたは神です。あなたはブラフマンです。」非二元論になります。

ウパニシャドの結論は、「シュヴェータケートゥ タットワマシ」シュヴェータケートゥだけではありません。皆さんがタットワマシです。そのように個人的にイメージしてください。

最初は何回も何回も聞いて、マナナして、集中して瞑想すると、^{アハン} aham ^{ブラフマースミ} brahmāsmi 「私はブラフマンです。」を理解できます。

6月21日 「バニヤンツリーの例え」

チャンドゥーギヤ・ウパニシャドより、「バニヤンツリー」の例

前回、自惚れについて話をしました。いろいろ勉強して自惚れが出るがありますが、誰が、どのレベルで勉強しているのでしょうか。すべて個人的に、頭を使い、記憶を使い勉強しています。私の肉体、感覚、知性を使い勉強しています。

しかし、悟るとその本当の“私”はアートマンです。アートマンは純粹意識です。絶対知識ですから、勉強は

しません。ですから、勉強して本当に悟ると、絶対に自惚れは出ません。

自惚れの原因は、肉体、心、感覚と同一視していることで出ます。無知の状態が自惚れの原因です。本性を悟ると自惚れはありません。それがもっとも基礎的な説明です。

次はチャンドーギヤ・ウパニシャド 6章 12節 1.2.3 から説明します^{注2)}。

*Nyagrodha-phalam atah ahara iti / idam bhagavah iti / bhinddhi iti / bhinnam bhagavah iti /
kim atra pasyasi iti / anvayah iva imah dhanah / bhagavah iti / asam ekam bhinddhi / anga iti /
bhinna bhagavah iti / kim atra pasyasi iti / kincana bhagavah iti / (chāndogya upaniṣad 6.12.1)*

訳：ウッターラカは言いました。「このガジュマルの木の実を持ってきてください。」シュヴェータケートゥは答えました。「持ってきました、先生」。ウッターラカ：「割ってください」。シュヴェータケートゥ：「割りました、先生」。ウッターラカ：「何が見えるか」。シュヴェータケートゥ：「小さな種がありますよ、先生」。ウッターラカ：「そのうちの 1 つの種を割ってください、息子よ」。シュヴェータケートゥ：「先生、割りました」。ウッターラカ：「中には何が見えますか?」シュヴェータケートゥ：「何もありません、先生」。

nyagrodha：ガジュマルの木 phalam；果実
atah ahara iti idam bhagavah iti；持ってきてください bhinddhi iti;割ってください
bhinnam bhagavah iti；先生、割りました kim；何 atra pasyasi iti；その中に何が見えますか
anvayah iva imah dhanah bhagavah iti；先生、小さい種が見えます
asam ekam bhinddhi；そのうち一つを割ってください anga iti；我が息子よ
bhinna bhagavah iti；先生、割りました kim atra pasyasi iti；そこに何が見えますか
kincana bhagavah iti；何もありません、先生

*Tam / ha uvaca / somya / etam vai animanam / yam na nibhalayase / etasya vai / animnah / somya / esah
mahanyagradhah / tisthati / sraddhatsva somya iti / (chāndogya upaniṣad 6.12.2)*

訳：その微細な本質は、お前には見えないが、ガジュマルの樹のすべてがその中に存在するのだ、息子よ。
その中に万物は存在する、と私の言うことを信じてください。おお、ソーミヤ。

tam；その時 ha uvaca；アニールが言いました somya；息子よ etam vai animanam；その精妙な部分
yam na nibhalayase；あなたには見えません etasya vai；まさにこれです animnah；精妙な部分
somya；ソーミヤ esah mahanyagradhah；この大きなガジュマルの木 tisthati；存在します
sraddhatsva somya iti；信じてください、おおソーミヤ

*Sah yah / esah / anima / idam sarvam aitadatmyam / tat satyam / sah atma / tat tvam asi / svetaketo iti
(chāndogya upaniṣad 6.12.3)*

訳：すべての中で最も微細なものが、このすべての真我である。それが真実である。それはアートマンである。
そして、シュヴェータケートゥよ、汝はそれである。

sah yah ; それは esah ; これ anima ; すべての中で最も精妙なもの
idam sarvam aitadatmyam ; これらすべての真我 tat satyam ; それが真実です sah atma ; それは真我です
tat tvam asi ; それがあなたです

(注釈)

Banyan tree (バニヤンツリー) のことを日本では、「菩提樹」といいますが、この由来は、お釈迦様がその木の下に座り悟ったので、bodhi (ボーディ) から菩提樹になりました。本当の名前は菩提樹ではなく、サンスクリットで、vata vriksya (ヴァータ ブリクシャ) といいます。世界で1番大きなバニヤンツリーはコルカタの近くのハウラーボタニカルガーデンにあります。

この宇宙は、観察もできないくらい大きいです。星も惑星も、どのくらいあるかわからないくらいたくさんあります。しかし、その宇宙の源はアートマンです。アートマンは精妙なものより精妙ですから見ることはできません。粗大なものと精妙なものとは、水や土は見えますが、風やエーテルは見えません。

自分の肉体をとっても、体は見えますが、心は見ることはできません。しかし、心は存在します。アートマンは、心より精妙ですから見えません。そのため魂という言葉を使っていますが、魂の特別な名前はありません。そして、この宇宙には、名前と形と性質がありますが、アートマンは、名前も性質もありません。

粗大な宇宙は、名前や性質がありますが、その源のアートマンは名前も性質もありませんから、これが大きな混乱の原因になります。

なぜなら、名前も形の性質もないアートマンが、どうして、名前や性質のある宇宙を創ることができるのかという疑問です。

それについては、前回の塩と水の例えで、アールニはシュヴェータケートゥに説明しました。そして、息子ももっと知りたいので、父親に教えをもっと聞かせて欲しいとお願いしました。アールニは、また別の例えを使いました。その1つが今回のバニヤンツリーの例えです。

バニヤンツリーの種は、イチジクの種のように、小さな小さな種です。その種を割ると何も見えません。バニヤンツリーの果実を割ると小さな種が出てきます。それを割るとその中には何もありません。

しかし、その中には、とてもとても精妙なものが入っています。それは見えませんが、絶対にあります。大きなバニヤンツリーの源は、潜在能力という形で、この種の中に宿っています。

その証拠として、その種を土に植えるとそこから芽がでて、木になります。それが証明です。議論しても見えませんが、その種を実証できます。

最初は、論理的な例を使って説明した後でも、信じることはできないことがあります。頭でわかっているても信じることはできません。なぜなら、そのような経験がないからです。

科学者が星の大きさについて、この惑星は太陽より大きいと話しても、見た目には、小さな点にしか見えない星に対して、頭では理解しても、先生が「私の言うことを信じてください」と言っても、信じることは難しいことがあります。

宇宙もそれと同じで、アートマンは精妙なものより、更に精妙です。見ることはできませんが、そのアートマンからその偉大な宇宙が現れています。

源はアートマンです。それが真理です。

そして、そのものは「タットワマシ シュヴェータケートゥ」。あなたはそのアートマンです。

本当の信仰 (シュラッター) の大切さ

ここでは、いろいろな例を使って話して、頭で理解しても信じることは難しいので、そのために「信仰」が必要だということを言っています。sraddhatsva somya iti (私の言うことを信じてください。おおソーミヤ)。

シュラッター (sraddha・信仰) という言葉を使っています。この語源は、シュラッタサヴァ (sraddhatsva) から来ています。

そのシュラッターは、悟りのためにはとても大事な方法です。バガヴァッド・ギーターの第3章31節の中にも出ています。

イエー メー マタム イダン ニッチャン アヌティシュタンティ マーナヴァーハ
Ye me matam idam nityam anutiṣṭhanti mānavāḥ /
シュラッターヴァントー ナスーヤントー ムッチャンテー テー ビ カルマビヒ
Sraddhāvanto 'nasūyanto mucyante te 'pi karmabhiḥ // 3-31

私のこの教えを信じ、^{さが}あら捜しをすることなく、誠実に行動する人は誰でも、
^{いんが}因果の鎖から解き放たれて自由になる。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ (以下スワミージー) も、何回もシュラッターのことはとても大事だと言っています。

シュラッターとは、日本語では、尊敬と訳しますが、その他にもいろんな意味があります。普通の信仰という言葉だけだと、「尊敬」という意味が含まれませんので、ここでは信仰は、シュラッターという言葉が適切です。

シュラッターには4つの大事なポイントがあります。1つは、神への信仰です。2つ目、聖典の信仰。3つ目、グルの助言の尊敬。4つ目、自分自身。そして4つを合わせて、包括的な意味でシュラッターという言葉を使っています。

この種類の信仰は、普通の信仰ではありません。私たちの普通の信仰はとても浅いものです。ですから、すぐに壊れてしまいます。すぐに疑いが出ます。すぐ混乱して、安定もなく深くありません。

本当の信仰は、とても安定していて、深く、強いものです。これが本当の信仰、シュラッターです。

この信仰について、聖書の中でキリストが語っています。「もしあなたに信仰があったら目の前の石に命令して動かすことができます」と言っています。それぐらいの結果が出ます。

聖書には、イエスが生涯の中でいろいろな病気の人を治し、台風も止め、死人を甦らした話があります。

「ある日のこと、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、『湖の向こう岸へ渡ろう』と言われたので、一同が船出した。渡って行く間に、イエスは眠ってしまわれた。すると突風が湖に吹きおろしてきたので、彼らは水をかぶって危険になった。そこで、みそばに寄ってきてイエスを起こし、『先生、先生、わたしたちは死にそうです』と言った。イエスは起き上がって、風と荒波とをおしかりになると、止んで凧になった。イエスは彼らに言われた。『あなたがたの信仰は、どこにあるのか』。彼らは恐れ驚いて互に言い合った、「いったい、このかたはだれだろう。お命じになると、風も水も従うとは」(ルカによる福音書 8:22)

「イエスは言われた、『石を取りのけなさい』。死んだラザロの姉妹マルタが言った、『主よ、もう臭くなっておりま。四日もたっていますから』。イエスは彼女に言われた。『もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか』。人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた。『父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。あなたがいつでもわたしの願いを聞き入れて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります』。こう言いながら、大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばれた。すると、死人は手足を布でまかれ、顔も覆いで包まれたまま、出てきた。」(ヨハネによる福音書11)

これが神への信仰です。スワームージーは、この有名な話を引用して、当時、タマス的で寝ている状態のインド人に向かって、「起きなさい！」と、タマス的な性質をやめてラジャス的になってください、と言いました。

普通の信仰では、病気を治したり、風を止めたり、死人を生き返らせるのは無理です、しかしキリストは信仰があればできると言いました。

シュリー・ラーマクリシュナも、マザー・カーリーに対する信仰があったので、マザー・カーリーは石の像ですが、マザー・カーリーが歩いている、食べている、話している姿を見えています。マザー・カーリーは、像ではなく生きています、と話しています。

もし、私たちもイエスやシュリー・ラーマクリシュナと同じくらいの信仰があったら、悟ることができます。

注1) このサマリーの巻末「Chhandogya Upanisad」の「1) Salt and Water」をご参照ください。

注2) 同上の「2) The seed of a banyan tree」をご参照ください。

Chhandogya Upanisad

1) Salt and Water

(Chapter 6 section 13 paragraph 1-2)

Lavanam etat / udake / avadhaya / ata ma pratah upasidathah
iti / Sah tatha ha cakara / tam ha uvaca /
yat lavanam / dosa / udake avadhah / anga / tat ahara iti / tat
ha avamrsya / na viveda /

Yatha / vilinam eva / anga / asya antat achama iti / katham iti
/ lavanam iti / madhyat acama iti / katham iti / lavanam iti /
antat acama iti / katham iti / lavanam iti / abhipraya etat /
atha ma upasidathah iti / tat ha tatha cakara / tat sasvat
samvartate / tam ha uvaca / atra vava kila / somya sat / na
nibhalayase / atra eva kila iti /

Sah yah / esah anima / idam sarvam aitadatmyam / tat
satyam / sah atma / tat tvam asi / svetaketo iti /

2) The seed of a banyan tree

(Chapter 6 section 12 paragraph 1)

Nyagrodha-phalam atah ahara iti / idam bhagavah iti /
bhinddhi iti / bhinnam bhagavah iti / kim atra pasyasi iti /
anvyah iva imah dhanah / bhagavah iti / asam ekam bhinddhi

/ anga iti / bhinna bhagavah iti / kim atra pasyasi iti / kincana
bhagavah iti /

Tam / ha uvaca / somya / etam vai animanam / yam na
nibhalayase / etasya vai / animnah / somya / esah
mahanyagradhah / tisthati / sraddhatsva somya iti /

Sah yah / esah / anima / idam sarvam aitadatmyam / tat
satyam / sah atma / tat tvam asi / svetaketo iti /